

事例 8：仙台都市圏物資流動調査

(都市交通改善の視点からの立地規制・誘導、公共施設配置計画)

< 本事例の特徴 >

物流計画のほかに、郊外化とモータリゼーションの進展する中で、交通負荷や自動車交通による環境負荷を軽減する観点からPT系の検討を行った。

市街地の空洞化と郊外化、交通施設整備の進展の困難性等を踏まえ、これまでの土地利用と与件とした交通体系調査から、交通施設計画を与件に交通とのバランス回復を目指した土地利用の検討を行った。

移動のしやすさを総合化したアクセシビリティ指標と自動車を与える社会的負荷の指標からゾーン別の交通環境評価を行い、地域交通環境を改善するための人口配置の基本方針を示した。

(1) 検討プロセス

平成9年度の物資流動実態調査データに基づいた物流系の検討と趨勢的都市形勢下における都市交通の問題点を整理したPT系の検討をそれぞれ行い、平成22年の計画方針として統合を行った。両系とも実現可能な幹線交通ネットワーク計画を前提として、交通計画とバランスした土地利用のあり方、TDMの方策を重点的に検討した。

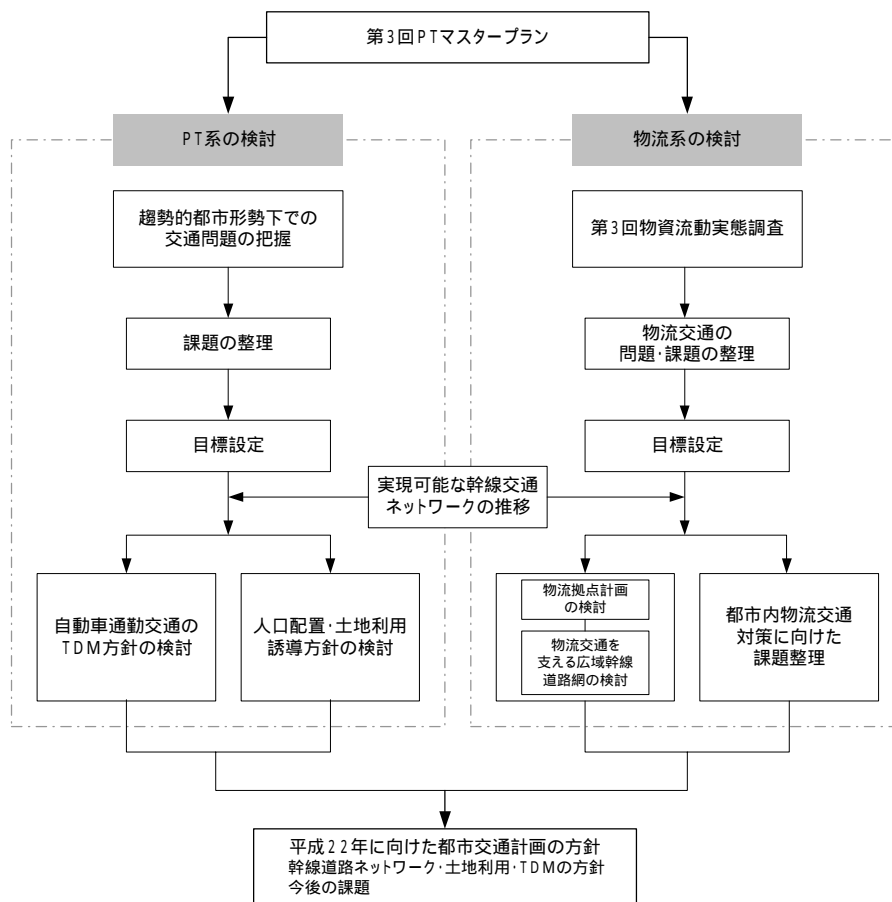


図 第3回物資流動調査 全体フロー

(2) 交通とバランスした居住配置の検討

趨勢的都市形成化における都市交通問題の見通し

仙台都市圏の人口成長が継続される一方、都市交通施設整備が当面見通せると都市計画道路のみに限られた場合の将来の交通状況の想定を行った。その結果、大量の自動車交通が郊外部に発生集中し、このため、郊外から都心への自動車アクセス時間が現況よりも悪くなるとともに、自動車交通による二酸化炭素の排出量が増大することが示された。

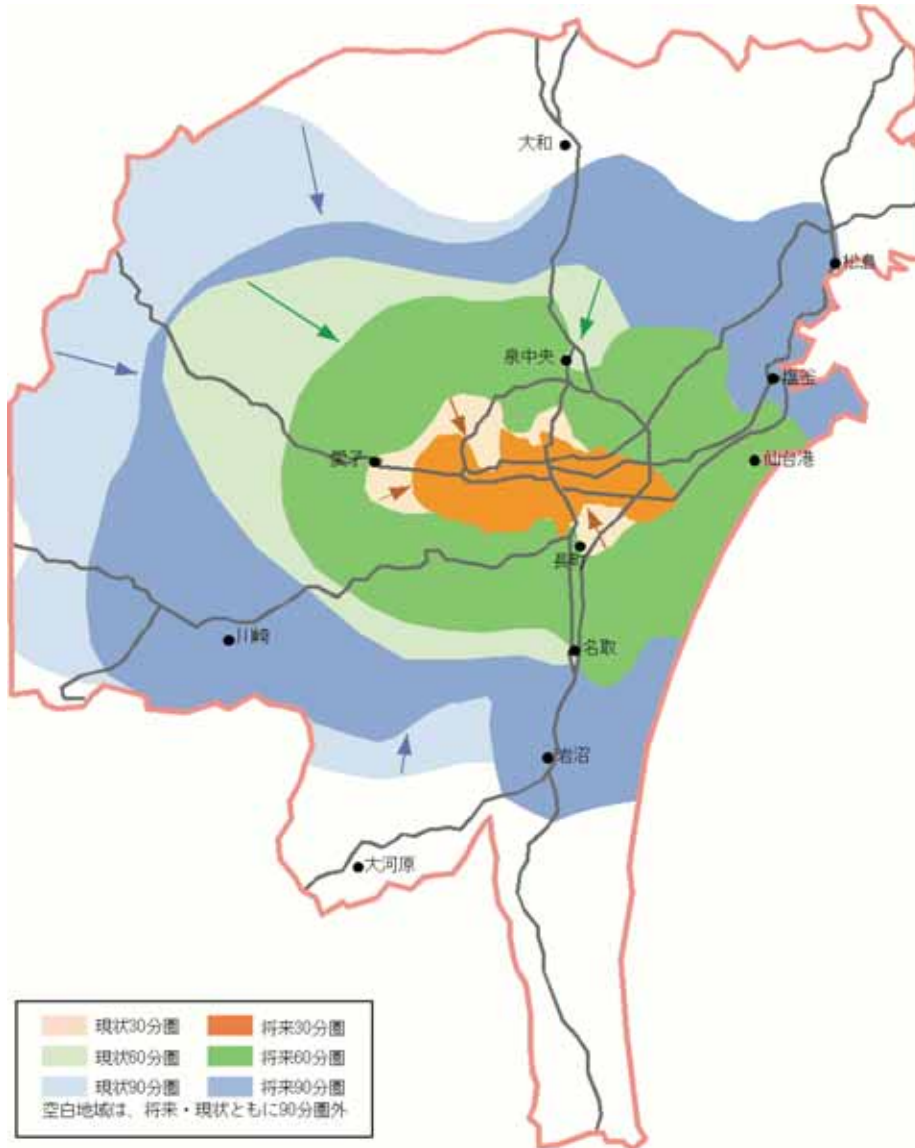


図 現況（H4）と趨勢的都市形成下（H22）における
仙台都心へのピーク時自動車所要時間

交通面からみた地域の評価

都市圏各地域の交通環境評価を、個人の日常生活の利便性を表す「アクセシビリティ」と社会的な負荷の影響を表す「自動車の社会的負荷」の2つの指標を用いて行った。

表 地域の交通環境評価と地域区分

A 区域	アクセシビリティが高く、社会的な負荷が小さい地域であり、交通環境の評価が高い地域
B 区域	アクセシビリティが高く、社会的な負荷が大きい地域であり、生活利便性は高いが自動車への依存も高い地域
C 区域	アクセシビリティが低く、社会的な負荷が小さい地域であり、生活利便性が低い地域
D 区域	アクセシビリティが低く、社会的な負荷が大きい地域であり、交通面からの評価が相対的に小さい地域

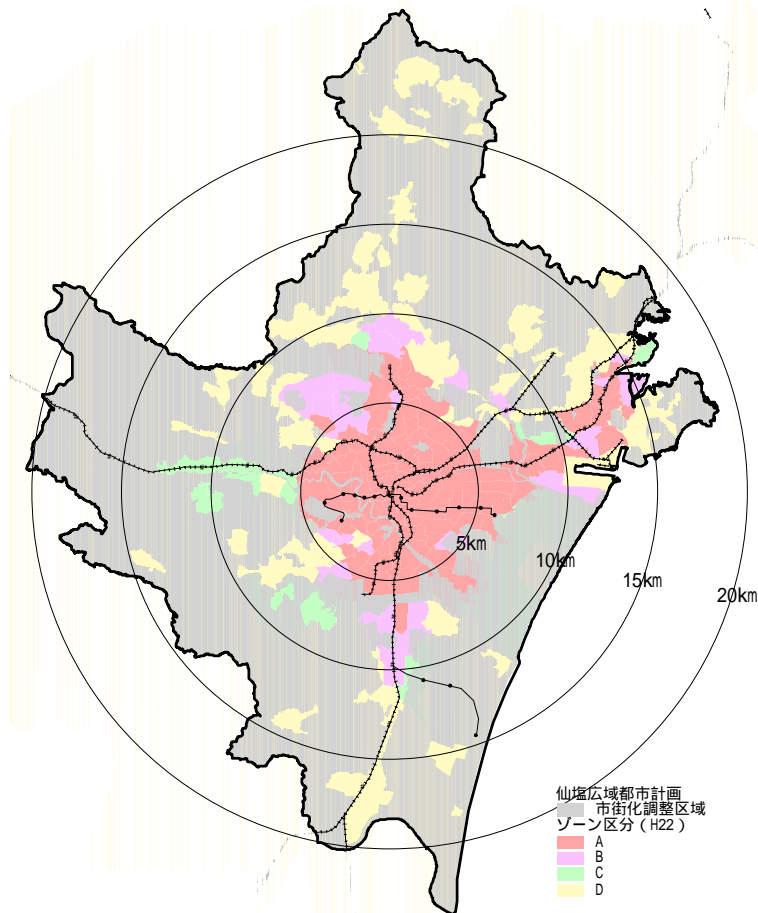
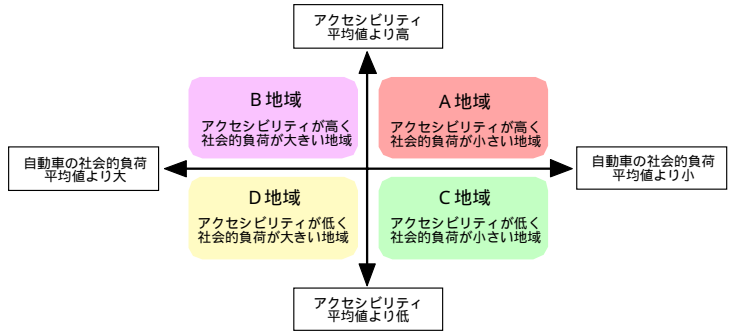


図 地域の交通環境評価結果

土地利用の誘導の提案

交通環境評価による人口配置の課題を踏まえ、都市交通問題の改善を必要とする仙塩広域都市計画区域の現行市街化区域を対象に、平成22年の地域交通環境状況を踏まえた人口配置の方針を提言した。

表 人口配置の基本的考え方

A 区域	アクセシビリティが高く、社会的な負荷が小さい地域であるため、今後積極的に人口誘導を進めるべき地域
B 区域	アクセシビリティが高く、社会的な負荷が大きい地域であり、自動車から公共交通への転換を条件として人口誘導を図る地域
C 区域	アクセシビリティが低く、社会的な負荷が小さい地域であるため、生活利便性の向上を条件として人口誘導を図る地域
D 区域	アクセシビリティが低く、社会的な負荷が大きい地域であるため、基本的には交通面から増加人口の調整を図るべき地域

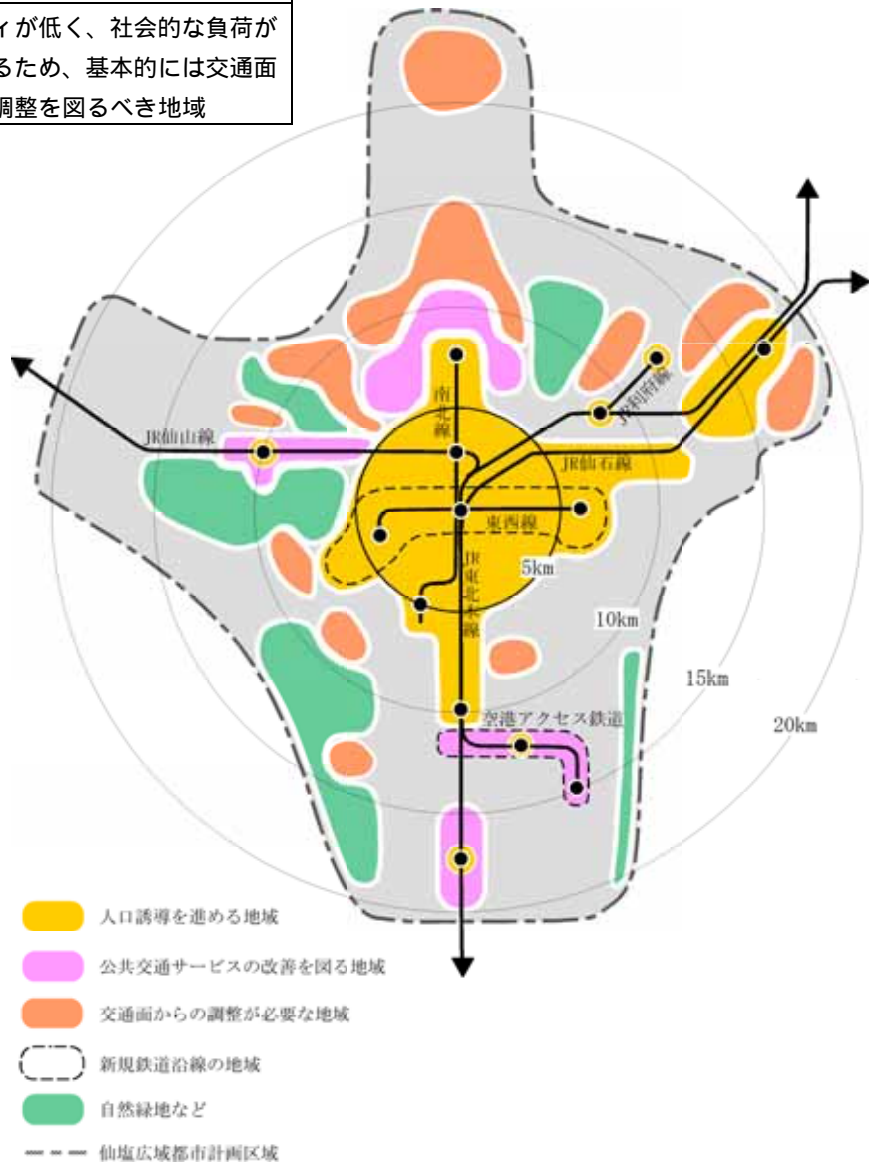


図 交通面からみた土地利用（人口配置）の方針